

平成26年2月28日策定
平成31年3月27日改訂
令和2年4月24日改訂
令和4年6月10日改訂
令和5年4月10日改訂
令和6年4月10日改訂
令和7年4月30日改訂

印西市立原山小学校

「学校いじめ防止基本方針」

1 いじめの防止等のための対策に関する基本方針

学校にある児童及び全ての者は、絶対にいじめを行ってはならない。

～「しない」「させない」「見逃さない」～

(1) いじめの定義（『いじめ防止対策推進法』第2条）

「いじめ」とは、児童に対して、当該児童が在籍する学校に在籍している等当該児童と一定の人的関係のある他の児童が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているものをいう。

(2) 基本理念

いじめは本校でも、またどの児童にもおこりうるものである。

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害する。さらに、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与え、その生命又は身体に重大な危険を及ぼすおそれがある。

本校では、日頃から「いじめの未然防止」及び「いじめの早期発見」に努めるとともに、いじめがあることが確認された場合にはいじめを受けた児童やいじめを知らせてきた児童の安全を確保し、いじめをしたとされる児童に対して事情を確認した上で適切に指導することを組織的に行う。

2 学校及び学校職員の責務

(1) 基本的な責務

- ① 学校は、当該学校におけるいじめ防止等のための基本的な方針を定める。
- ② 学校は、関係者（当該学校の複数の教職員、心理、福祉等に関する知識を有するもの）により構成されるいじめ防止のための組織を置く。

（『いじめ防止対策推進法』第13条、第22条より）

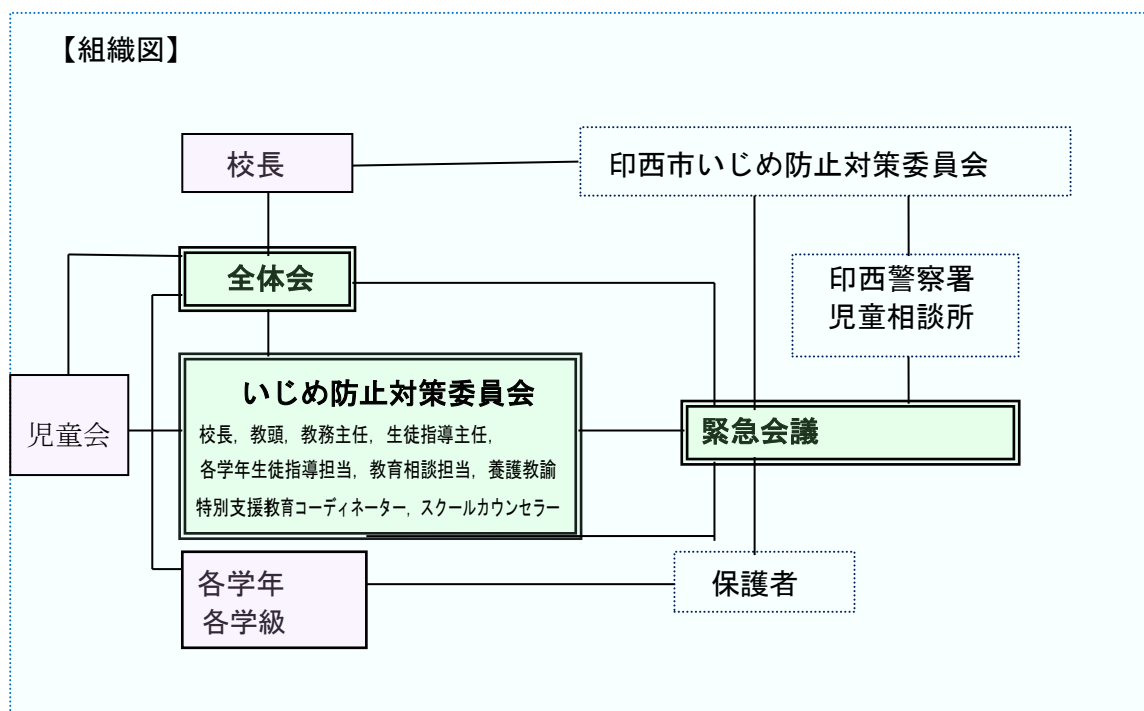
(2) 基本方針の重点

学校や教職員は、学校内外において、いじめが行われず、すべての児童が安心して学習やその他の諸活動に取り組むことができるようにする。そのために以下を重点として、対策を進める。

- ① いじめの防止
 - ・ いじめを「しない」「させない」「見逃さない」環境醸成に努める。
 - ・ 児童の自己有用感を高め自尊感情を育むような、「わかりやすい授業」や「充実感のある教育活動」の実現に努める。
- ② 早期発見
 - ・ 調査・観察・相談・通報等の様々な手段により、学校全体で早期発見に努める。
- ③ 適切な対応
 - ・ いじめ発見の際には、事情聴取・情報収集を迅速・適切に行い、組織で対応する。
 - ・ 保護者への情報提供・情報交換・助言等の連携・協力を密に行う。
 - ・ 市教委等関係機関と連携を図りながら、いじめ防止や発生時の解決に努める。
- ④ インターネットを通じて行われるいじめに対応する。
 - ・ 情報モラル研修を実施し、インターネットを通じて行われるいじめを防止する。
 - ・ SNS等の取り扱いなど計画的な学習・指導も行う。関係児童の保護者と情報を共有し、連携して問題解決にあたる。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症を理由としたいじめや偏見が生じないように、生徒指導上の配慮を十分に行う。
- ⑥ 重大事態を想定した対応策を作成し、再発防止に努める。
- ⑦ 家庭・地域との連携を図る。地域社会全体で児童を見守り、健やかな成長を促すため、学校関係者と地域、家庭と普段からの連携を密に図る。

3 いじめ防止の組織

学校に、「生徒指導委員会（いじめ防止対策委員会）」「全体会」「緊急会議」等の組織を置き、速やかにかつ適切に対応する。



(1) 「全体会」 < 全教職員が参加 >

①基本方針の策定

②いじめ防止に関すること（基本方針の年間計画作成・研修の実施等）

③いじめの早期発見に関すること（いじめ相談通報窓口の設定・情報収集・情報交換等）

④いじめ事案に対する対応に関すること（対応方針の決定等）

⑤いじめの影響やその他のいじめの問題に関する児童の理解を

深めること（児童会・生徒会活動の支援・行事の実施等）

⑥保護者・関係機関との連携

(2) 「生徒指導部会（必要に応じて『いじめ防止対策委員会』）」

いじめ防止対策のための中心的な役割を担う。

日常的な業務についての協議・維持ものの状況把握を月1回，生徒指導部会で行う。

(3) 「緊急会議」 < 重大事態発生時に，必要に応じて全教職員，

保護者代表，所轄警察，学校医，印西市教育委員会指導主事等>

重大事案の発生時に事案の解決に努める。（緊急対応の決定等）

4 中心組織の役割について

(1) 「生徒指導部会（いじめ防止対策委員会）」の設置

いじめの防止対策のための中心組織「生徒指導部会（いじめ防止対策委員会）」を設置し、防止対策を機動的・効果的に行う。

【部会の構成員】

校長，教頭，教務主任，生徒指導主任，各学年生徒指導担当，教育相談担当，特別支援教育コーディネーター，養護教諭，スクールカウンセラー

(2) 「生徒指導部会（いじめ防止対策委員会）」の主な活動内容

定期的に協議する内容

- ① 生徒指導に関する話し合い（共通理解事項の確認）
- ② いじめ防止に関すること（年間計画の進捗状況の把握・検証作業の推進等）
- ③ いじめの早期発見に関する情報収集・情報共有
（アンケート調査内容の検討，教育相談計画，情報交換・収集等）
※月に一回情報交換した際に、全データを記録し、指導に生かすとともに、
次年度以降にも引き継げるようにする。
- ④ いじめまたはいじめと疑われる事案に関する方針・対応・記録
（事実関係聴取，対応の具体的手順・検討・決定
いつ・だれが・だれと・だれに・どのように・・・）
- ⑤ 教職員に関する「いじめ防止対策」研修の企画
- ⑥ 保護者・関係機関との連携
- ⑦ いじめ防止の取組に対する評価

(3) 「生徒指導部会（いじめ防止対策委員会）」の開催

月1回第4週の水曜日に定例会として開催し，共通理解が必要な情報について会議にて共有する。
また，いじめ事案発生時は緊急に開催する。

5 基本的施策

(1) いじめを未然に防止する

① 学校の重点目標

学校の重点目標の一つにいじめ防止の事項を掲げ、いじめを「しない」、「させない」、「見逃さない」ことに組織的に取り組む。

② 心の教育の充実

- ・児童の豊かな情操と道徳心、心の通う「対人交流能力」の素地を養うため、全ての教育活動を通じて道徳教育・人権教育の充実を図る。
- ・体験活動、情報モラル教育、印西市教育委員会作成パンフレットを活用した授業等の教育活動の充実を図る。
- ・「いのちを大切にするキャンペーン」、いじめ撲滅等のキャンペーンの充実を図る。
- ・ソーシャルスキルトレーニング等の充実や人権週間での啓発活動を行う。

③ 人権的言語環境の整備と自己有用感を高める授業・活動

- ・児童や教職員自らの人権的言語環境を整備し、言語環境を起因としたいじめの発生を防ぐ。
- ・児童の自己有用感を高めるような「わかる授業」や「充実感・達成感のある活動」の実現に努める。

④ 行事、児童会活動等を通した児童への指導

- ・児童によるいじめ防止に関する児童会活動の支援を積極的に行い、児童による自発的ないじめ防止の意識を高める。
- ・人権標語・作文、いじめ防止キャンペーン、道徳集会等で、児童への指導を継続的に行う。

⑤ 保護者や地域との連携

- ・保護者や地域住民、関係団体との連携を図り、いじめに関する児童の実態を把握する。
- ・道徳授業を授業参観等で公開し、いじめ防止に関する保護者や地域住民の理解を深めるための活動を継続的に行う。

⑥ 学校として特に配慮が必要な児童への配慮

- ・発達障害を含む、障害のある児童については、個別的教育支援計画を活用した情報共有を行い、適切な指導・支援を行う。
- ・海外からの帰国した児童や外国人の生徒などは、言語や文化の差に留意して指導にあたる。
- ・性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童について、正しい理解の促進や、学校として必要な対応について周知する。
- ・東日本大震災などの大きな災害により被災した児童については、受けた心身への多大な影響や、慣れない環境への不安等に対する心のケアを行い、いじめの未然防止・早期発見に取り組む。

(2) いじめを早期に発見する

① いじめの調査等

一人一台端末を活用し、相談したいことがあったらいつでも連絡できる体制を整える。

いじめを早期発見するために、在籍する児童に対する定期的な調査を実施する。

- ・児童対象のいじめアンケート調査 年3回（6月，10月，2月）
- ・保護者対象のいじめ等アンケート調査 年2回（5月，10月）
- ・教育相談を通じた学級担任等による児童からの聞き取り調査 年3回（6月，10月，2月）
- ・保護者対象にした教育相談週間（12月・その他希望があれば適宜行う。）

② いじめ相談体制の整備

児童及び家庭、地域住民がいじめに関する相談を行うことができるように、次のような相談体制の整備を行う。

- ・ スクールカウンセラーの活用
- ・ 各種相談機関（印西市教育センターのこども相談室 0476-47-7830
文部科学省 24時間こども SOS ダイヤル 0120-0-78310
ヤングテレフォン 0120-783-497 等）の情報提供

③ いじめ相談・通報窓口の設置

相談担当 <養護教諭・特別支援コーディネーター・教頭>
相談箱 <保健室前>

④ 研修等による教職員の資質向上

- ・ いじめの防止等の対策に関する研修を年間計画に位置付け、教職員の資質向上を図る。
- ・ 児童の全ての教育活動において人間関係や児童の心情を把握するために、組織体制を整える。

(3) いじめへの対応

いじめ情報のキャッチ

- ・ 「いじめ防止対策委員会」を招集する。
- ・ いじめられた生徒を徹底して守る。
- ・ 見守る体制を整備する。

正確な実態把握

- ・ 当事者双方、周りの生徒から聞き取り、記録する。
- ・ 保護者からの情報を得る。
- ・ 関係教職員と情報を共有し、正確に把握して、共通認識を持つ。
- ・ いじめの全体像・構図・原因・経過を整理・把握し、記録する。

指導体制、方針決定

- ・ 指導のねらい・方針を明確にする。
- ・ 全ての教職員の共通理解を図る。
- ・ 対応する教職員の役割分担を決める。
- ・ 教育委員会、関係機関との連携を図る。

児童への指導・支援

- ・ いじめられた児童を保護し、心配や不安を取り除く。
- ・ いじめた児童に、相手の苦しみや痛み思いを寄せる指導を十分に行う中で、「いじめは決して許されない行為である」意識を待たせる。

保護者との連携

- ・ 直接会って、状況説明、今後の具体的な対策を伝える。
- ・ いじめた側の保護者への説明、助言を行う。
- ・ 今後の学校との連携方法を話し合う。

今後の対応

- ・ 継続的に指導や支援を行う。
- ・ 明日からの「居場所づくり」「絆づくり」の環境設定を行う。
- ・ スクールカウンセラー等の活用も含め心のケアにあたる。
- ・ 道徳教育や人権教育の充実を図り、誰もが大切にされる学級経営を行う。

いじめ発見時の緊急対応

発見教職員等がいじめをやめさせる

- ・ いじめを発見等した教員はその時に、その場でいじめをやめさせる等適切な指導を行う。

情報収集

- ・ 事情聴取をする。
- ・ いじめに関わる情報を収集する。

管理職への報告

- ・ いじめ（いじめに関わる相談を受けた場合）は、速やかに管理職に報告する。
- ・ 複数の教員での素早く、正確な事実関係の把握をし、対応する。

(4) 関係機関との連携

① 印西市教育委員会との連携

犯罪行為として取り扱われるいじめ事案、教育相談体制の充実が必要ないじめ事案、インターネットを通じてのいじめ事案については、印西市教育委員会と連携して対応する。

② 印西警察署・北総地区少年センターとの連携

犯罪行為として取り扱われるいじめ事案、インターネットを通じてのいじめ事案については、印西警察署等と連携して対応する。

③ 児童相談所等との連携

家庭環境に起因するいじめ事案については、子育て支援課・児童相談所等と連携して対応する。

④ その他

その他、必要に応じて相談機関、保健機関、福祉機関、医療機関等と連携をとる。

6 インターネットを通じて行われるいじめの対応

インターネットの高度の流通性、拡散性、匿名性等の特性を踏まえ、児童及び保護者がインターネットを通じて行われるいじめを防止し、効果的に対応できるようにする。

① ネットいじめに関する教職員研修の充実、印西市教育委員会との連携

② 児童への情報モラル教育を年間計画に盛り込み、計画的に実施する。

※印西市教育センターによる「ネットリテラシーコンテンツ授業」の利用

※デジタルシティズンシップをもとに、情報の活用する上での注意点をしっかりと指導する。

③ 保護者への啓発活動として、PTA活動や家庭教育学級における情報モラル研修会の開催。保護者との情報共有と連携しての問題解決。

④ 自分(児童)以外のアカウントやパスワードを教えない・教わらない・盗まない。

7 重大事案（市長に報告するもの）の対応

生命・心身又は財産に重大な被害が生じた疑いや、相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合は、次の対応を行う。

(1) 印西市教育委員会への報告と連携

重大な事態が発生した旨を、印西市教育委員会（「いじめ防止対策委員会」）に速やかに報告する。

(2) 組織の設置と関係機関との連携

印西市教育委員会と協議の上、当該事案に対処する組織「緊急会議」を設置し、対応する。
必要に応じて印西警察署等へ報告する。

(3) 再調査

「緊急会議」の組織を中心として、事実関係を明確にするための再調査を実施する。

(4) 適切な情報の提供

いじめを受けた児童や保護者に対し、事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。また、いじめを行った児童や保護者に対しても、事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。

(5) 調査結果を設置者（→市長）に報告

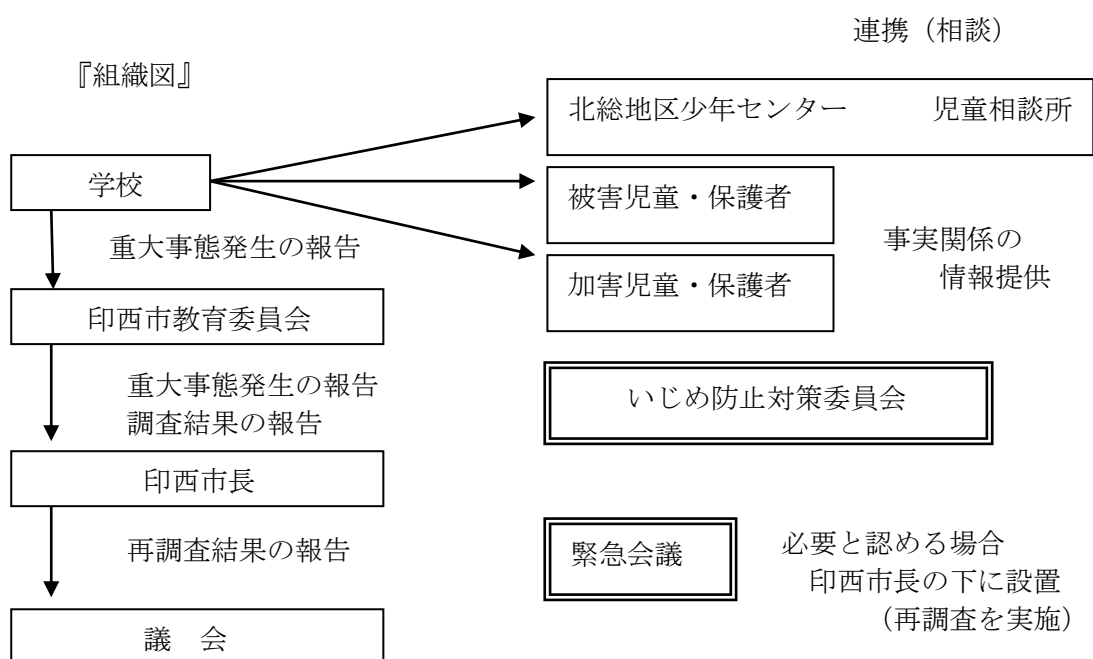
児童や保護者の所見を希望により、添える。

(6) 調査結果を踏まえた必要な対応・措置

当該児童・保護者に対するアフターケアを徹底する。

(7) 報道機関への対応

必要に応じて、窓口の決定、市教育委員会への連絡、取材の日時・場所・担当・内容の決定等を行う。



8 基本方針及び学校評価の結果の公表

学校の重点目標の一つに掲げたいじめ防止対策について、学校評価の項目に入れる。いじめの実態把握、隠蔽防止、適切な措置を行うため、適正に評価し、措置の改善を図る。

いじめの防止・早期発見に関する取組に関すること

いじめに対する措置・対応に関すること

適正な評価のために、「学校いじめ防止対策基本方針」（全体または概要）及び学校評価の結果は、保護者への便りやホームページ等で公表する。

いじめ防止等に関する年間計画

	学 校	学 級	保護者・地域・関係機関
4 月	・学校いじめ基本方針 共通理解 ・デジタルシティズンシップに関する職員研修。 ・【生徒指導部会】 ・縦割り活動	・学級活動、道徳科等（いじめ、思いやり、命 等） ※SOS の出し方教育についての周知 ※相談窓口の周知	・P T A 総会 ・P T A 代表会 ・校外パトロール ・イエローリボンキャンペーン周知
5 月	・【生徒指導部会】 ・縦割り活動 ・デジタルシティズンシップ	・学級での児童の一日の振り返り（毎日・帰りの会）	・中学校区交流会 ・P T A 代表会 ・校外パトロール
6 月	・いじめアンケートの実施 ・教育相談週間 ・【生徒指導部会】 ・縦割り活動 ・道徳授業参観 ・デジタルシティズンシップ	・こころのアンケートの実施 ・学級担任による教育相談 ・学級での児童の一日の振り返り（毎日・帰りの会） ※SOS の出し方教育	・いじめアンケートの実施 ・民生委員・学校委員会議 ・P T A 代表会 ・校外パトロール
7 月	・生活・学習に関するアンケート ・【生徒指導部会】 ・学校評価 ・縦割り活動 ・デジタルシティズンシップ ※SOS の出し方教育についての周知 ※相談窓口の周知	・生活・学習に関するアンケート ・学級での児童の一日の振り返り（毎日・帰りの会）	・学校評価アンケートの実施 ・中学校区交流会・校外パトロール ・P T A 代表会
8 月	・【生徒指導部会】		・校外パトロール
9 月	・【生徒指導部会】 ・縦割り活動 ・学校評価 ・デジタルシティズンシップ ※市いじめ防止啓発強化月間 ○人権標語の作成・掲示	・学級での児童の一日の振り返り（毎日・帰りの会） ※いじめ防止・早期発見等（道徳科・総合的な学習 等）	・P T A 代表会 ・校外パトロール
10 月	・【生徒指導部会】 ・いじめアンケートの実施 ・人権集会に向けた取組 ・教育相談週間 ・縦割り活動・道徳研修（授業実践） ・デジタルシティズンシップ	・こころのアンケートの実施 ・学級担任による教育相談 ※児童だけではなく、希望のある保護者に対しても相談を受け付ける。 ・学級活動、道徳科（いじめ、思いやり、誠実 等）	・いじめアンケートの実施 ・ネットトラブル講演会 ・校外パトロール
11 月	・【生徒指導部会】 ・学校公開 ・縦割り活動	・学級での児童の一日の振り返り（毎日・帰りの会） 【人権週間での取り組み】	・P T A 代表会 ・校外パトロール
12 月	・【生徒指導部会】 ・縦割り活動 ・学校評価 ・デジタルシティズンシップ ※人権教育週間	・生活・学習に関するアンケート ・学級活動・道徳科等（いじめのない明るい学校生活）	・学校評価アンケートの実施 ・中学校区交流会・校外パトロール
1 月	・【生徒指導部会】 ・縦割り活動 ・学校評価の公開 ・道徳研修（授業実践） ・デジタルシティズンシップ	・学級での児童の一日の振り返り（毎日・帰りの会）	・学校評価委員会の実施 ・P T A 代表会 ・校外パトロール
2 月	・【生徒指導部会】 ・縦割り活動 ・デジタルシティズンシップ	・学級での児童の一日の振り返り（毎日・帰りの会） ・こころのアンケートの実施 ・学級担任による教育相談	・校外パトロール
3 月	・【生徒指導部会】 ・縦割り活動 ・小中連絡会	・学級での児童の一日の振り返り（毎日・帰りの会）	・中学校区交流会・校外パトロール ・P T A 代表会